

第3章

加東市の農業のめざすべき将来のビジョン

Ⅰ めざすべき将来の農業活性化ビジョン

本市は、北東部の中山間地と南西部を流れる加古川周辺の穏やかな丘陵地に分かれ、瀬戸内型の温暖な気候に恵まれた自然環境のもと、酒米の王者と言われる「山田錦」の産地として米作りが行われてきました。農業は地域の生活と密着しており、朝光寺鬼追踊や秋津百石踊など、各地域で五穀豊穡や雨乞いを願う神事が奉納され、人と農が共生、共存し自然と伝統を育んできました。

しかしながら、近年の社会情勢や自然環境の変化に伴い、農業者の高齢化と離農者が増加する中、地域住民の農に対する意識が希薄化し、農業生産活動による多面的な機能や、地域社会に大きな変化をもたらしています。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により社会状況は大きく変化し、その変化は農業分野においても影響を及ぼしています。

本市では、前期・中期計画におけるめざすべきビジョンを「地域資源を活かし、人を活かした力強い農業」として掲げてきました。コロナ禍により状況は大きく変化していますが、本市農業に関する現状と課題、また、農業従事者等に対するアンケート結果からも、根本的な課題は変わっていないことや、前期・中期計画の評価において「目標値を達成」、「達成していないが順調」を合わせても50%に満たない分野もあります。

このようなことから、これまでと同様に「農政」「農業生産環境」「農産物」の3つの分野に分け、それぞれの「めざすべき将来像」を示し、地域が一体となり農業の維持、継続、更なる発展のため、めざすべき方向性として、本計画においても、前期・中期計画におけるめざすべきビジョン「地域資源を活かし、人を活かした力強い農業」を継承します。

これまで育んできた自然と伝統を受け継ぎながら、豊かで活力のある地域づくりを進めるとともに、地域の特色を活かした農業、環境の変化に対応できる力強い農業の確立を目指すため、このビジョンをもとに、実現に向けて行政と市民（地域住民）、各種団体等が協力、連携しながら推進します。

加東市がめざすべき将来の農業活性化ビジョン

**地域資源を活かし、
人を活かした力強い農業**

[関連する SDGs の取組目標]

(1) 農政分野のめざすべき将来像



地域の中心経営体となる認定農業者や集落営農組織など農業の担い手が確保・育成されています。

また、「地域計画（人・農地プラン）」の作成と合わせ、農地中間管理機構*を通じた農地の集積・集約化が進み、継続的に農地の適正管理が行われています。

さらに、集積・集約化された農地では、多様で競争力の高い経営体の効率的な農業生産により農業所得が向上し、活性化した農業のおかげで遊休農地も増えず、農村も元気です。

[関連する SDGs の取組目標]

(2) 農業生産環境分野のめざすべき将来像



ため池や水路のネットワークを地域全体の財産として、市民全体で守り伝えようとする意識が高まり、非農家も参加して、積極的な保全活動が行われることで、生産基盤施設の機能が維持されています。

また、ため池ハザードマップの作成や水路のパイプラインの整備が進むなど、誰にとっても安全で安心な農村環境が整っています。

有害鳥獣の被害が減少して営農意欲も高まり、担い手となる地域の中心経営体に集約された優良な農地で、効率の良い農業生産が行われています。

[関連する SDGs の取組目標]

(3) 農産物分野のめざすべき将来像



加東市産山田錦の品質向上の取組が全国の蔵元に評価され、加東市産酒米のブランド力が高まるとともに、もち麦の安定した収量の確保及び高品質化による安定した供給や加東市産もち麦の認知度が向上し消費されています。

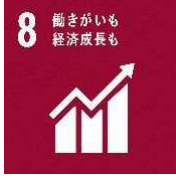
直売所に並ぶ市内産の農産物は、いつも新鮮かつ安心で魅力があり、地産地消の意識が高まっているため、市民や観光客が本市産の農産物を積極的に選び、生産の拡大及び地域農業が活発になっています。さらに、新たな農産物のブランド化が確立し、京阪神などの都心部でも販売されています。

また、様々な献立を市内産の農産物で作る学校給食を食べる子どもたちは、健康で元気いっぱいです。家庭でも、地元産の農産物を使った献立が増え、「食」や「農」、地産地消への関心が高まり、望ましい食生活によって、健康な市民が増えています。

SDGs (エス・ディ・ジーズ) との関連性

SDGs*は、環境、社会、経済のバランスがとれた社会の実現に向けた17のゴールと、課題ごとに設定された169のターゲットから成る世界共通の目標です。

本計画では、全ての分野に「2 飢餓をゼロに」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」が関連し、農政分野は「5 ジェンダー平等を実現しよう」「8 働きがいも経済成長も」、農業生産環境分野は「13 気候変動に具体的な対策を」「15 陸の豊かさを守ろう」、農産物分野は「4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任つかう責任」がそれぞれ関連しており、農業を持続的に発展させるためには、地域の環境や経済への配慮による貢献が求められています。

目標	内容
飢餓をゼロに 	飢餓とあらゆる栄養不良に終止符を打ち、持続可能な食料生産を達成することをめざす
質の高い教育をみんなに 	すべての子供が平等に質の高い教育を受けられるようにすること、高等教育にアクセスできることをめざす
ジェンダー平等を実現しよう 	女性が潜在能力を十分に発揮して活躍できるように、教育や訓練の充実、有害な慣行を含め、女性と女児に対するあらゆる形態の差別と暴力をなくすことをめざす
働きがいも経済成長も 	すべての人々に生産的な完全雇用と働きがいのある人間らしい仕事の機会を提供しつつ、強制労働や人身取引、児童労働を根絶することをめざす
住み続けられるまちづくりを 	コミュニティの絆と個人の安全を強化しつつ、イノベーションや雇用を刺激する形で、都市その他の人間居住地の再生と計画を図ることをめざす

目標	内容
つくる責任つかう責任 	環境に害を及ぼす物質の管理に関する具体的な政策や国際協定などの措置を通じ、持続可能な消費と生産のパターンを推進することをめざす
気候変動に具体的な対策を 	気候変動とその影響に対処するだけでなく、気候関連の危険や自然災害に対応できる復元・回復力を構築するためにも、緊急の対策を講じる
陸の豊かさを守ろう 	持続可能な形で森林を管理、劣化した土地を回復し、砂漠化対策を成功させ、自然の生息地の劣化を食い止め、生物多様性の損失に終止符を打つことめざす
パートナーシップで目標を達成しよう 	持続可能な開発のための政府、民間セクター、市民社会の間のパートナーシップを強化し、グローバル、地域、国内、地方の各レベルのパートナーシップを活性化



2 基本施策の体系

本市がめざすべき将来の農業活性化ビジョンの実現に向けて、「1 農政分野」「2 農業生産環境分野」「3 農産物分野」の各施策体系を以下のとおり示します。

	基本施策	施策内容
1 農政分野	(1) 農業の担い手育成 重点 取組	①地域の担い手の育成 ②新たな就農者の育成 ③地域計画（人・農地プラン）の作成及び担い手の明確化
	(2) 農地の集積と集約化の推進	①担い手への農地の集積・集約化 ②農業用施設の管理体制の構築
	(3) 遊休農地発生の抑制	①遊休農地発生の抑制 ②農地の適正管理の推進
	(4) 農業経営基盤の強化	①設備投資と経営の合理化等による経営基盤の強化 ②多様な経営体の育成 ③経営所得安定対策等による農業所得の向上と安定化

	基本施策	施策内容
2 農業生産環境分野	(1) 農業生産環境の整備	①農業用施設の維持と保全管理 ②防災減災対策の推進 ③基盤整備の促進
	(2) 鳥獣被害対策の推進 重点 取組	①有害鳥獣侵入防護対策の推進 ②有害鳥獣捕獲対策の推進 ③鳥獣被害に強い集落づくり

	基本施策	施策内容
3 農産物分野	(1) 加東市産山田錦の ブランド力の向上	①加東市産山田錦のPR
	(2) 効率的な作付体系の確立と 酒造好適米の生産拡大	①生産環境に合わせた適地適作 ②酒造好適米の需要及び生産拡大
	(3) 農産物のブランド化 と生産拡大 重点 取組	①営農部会の活性化と農産物の付加価値の向上 ②加東市産もち麦の普及と活用促進
	(4) 地産地消の推進	①直売所と学校給食による地産地消の推進 ②事業者と連携した販路拡大 ③食育の推進